



コアシェルカラムの基礎講座: これからコアシェルカラムを試して みたい方へ 必見!!

クロマニックテクノロジーズ 塚本友康 長江徳和

Email: info@chromanik.co.jp http://chromanik.co.jp

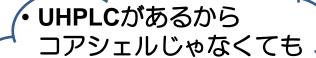






コアシェルカラムってどうなの?

- ^イ・速く分析したい
- -・分離をよくしたい
- HPLCでも使えるって本当?
- 使ってみたけど・・・



-• UHPLCでのメリット` ってあるの?



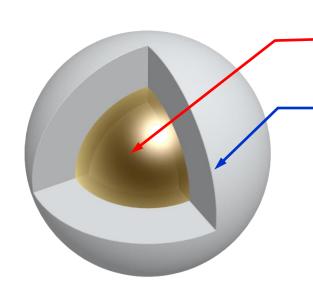
- 全多孔性の粒子より何が 優れているの?
- 何が違うの?
- デメリットないの?

√ コアシェルカラムってどの
− メーカーもいっしょなの?





全多孔性粒子と何が違う?



核を内包している(フューズドシリカ)

多孔質シリカ層

- 構造は異なる(コアが有るか無いか)
- ・コアがあるため、比表面積が小さい
- ・素材はシリカであり、全多孔性、 コアシェルとも共通

化学的特徴は全多孔性シリカと同じ

全多孔性シリカカラムで注意すべきこと

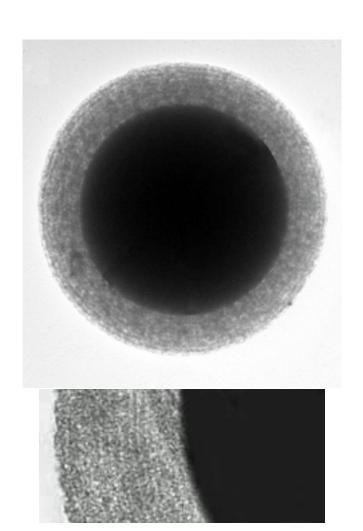


コアシェルシリカカラムで注意すべきこと

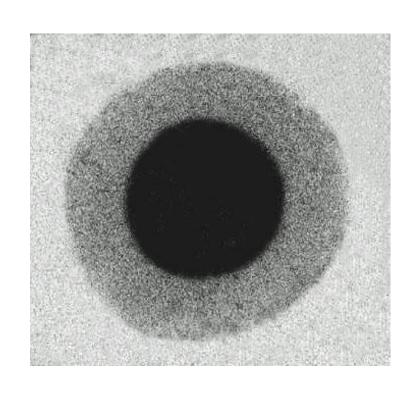




二種類のコアシェル構造のシリカ粒子



マルチレイヤー(多層)多孔質層構造



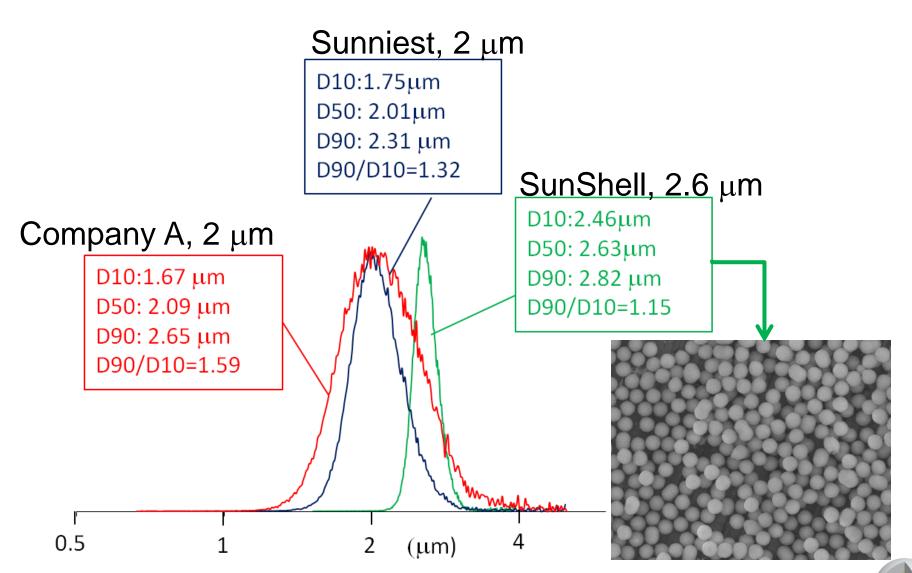
モノレイヤー(単層)多孔質構造







粒度分布の比較

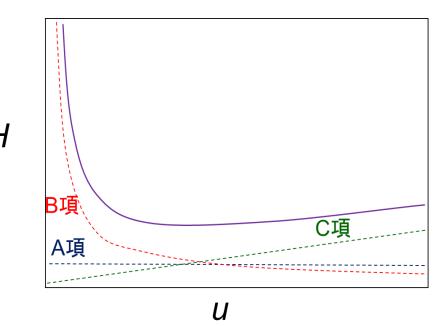






Van Deemterの式

$$H = Ad_p + B\frac{D_m}{u} + C\frac{d_p^2}{D_m}u$$



A項 : 多流路拡散、渦巻き拡散 : 粒径をdp

B項 : カラム軸方向への拡散、アナライトの移動相中の拡散係数をDm

C項 : 物質移動の項 : 固定相-移動相での物質移動、粒子内での

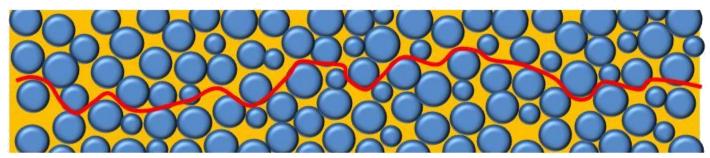
拡散による物質移動に依存

1. F. D. Antia and C. Horvath, J. Chromatogr., 435 (1988) 1-15.

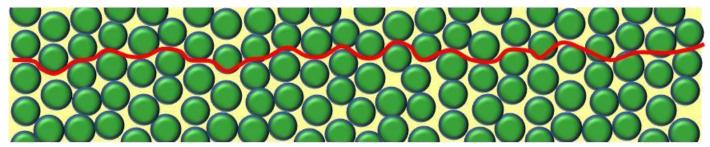


多流路拡散・渦巻き拡散が小さくなる

粒度分布の広い充填剤(一般的な全多孔性シリカ、粒子間空隙率:35%~40%)



(コアシェルシリカ, 粒子間空隙率:30%~35%) 粒度分布の狭充填剤



コアシェルシリカは・・

粒度分布が狭いため、細密充填に近くなる



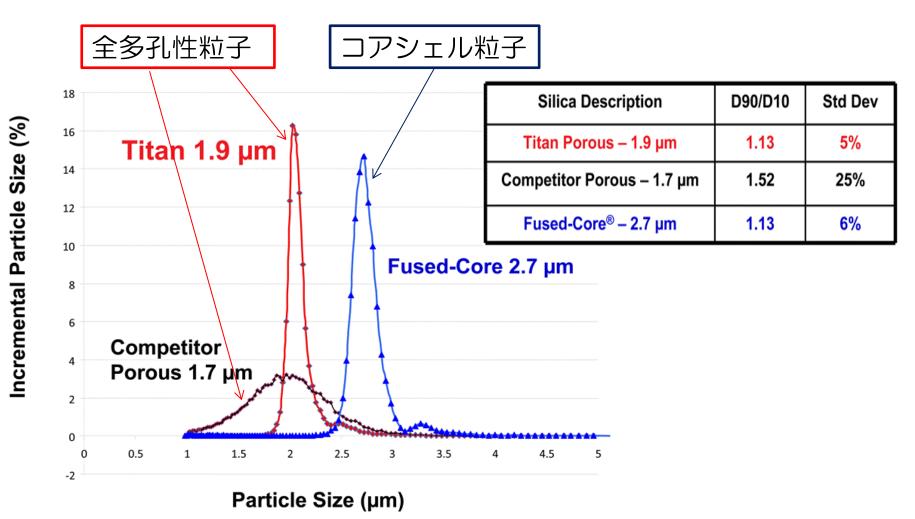
多流路拡散・渦巻き拡散が小さくなる → AdpのAが小さくなる







粒度分布の比較2



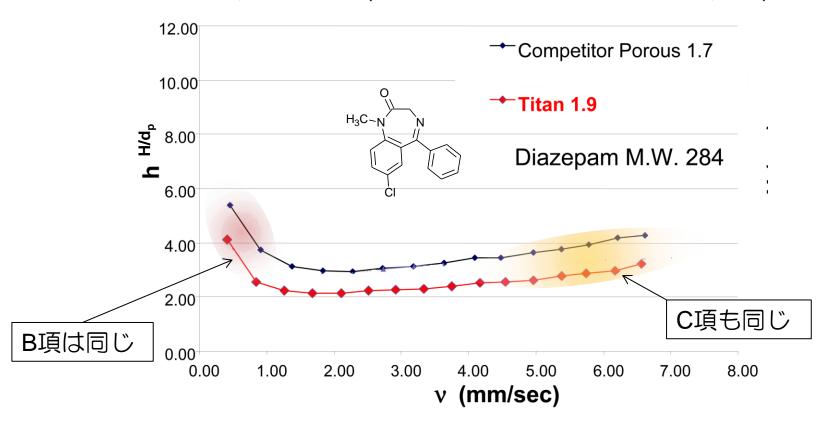






Van Deemter Plotの比較 (全多孔性 vs 全多孔性)

Columns: C18, 5 cm x 3.0 mm (40:60 acetonitrile:water + 0.1% formic acid, 35 °C)

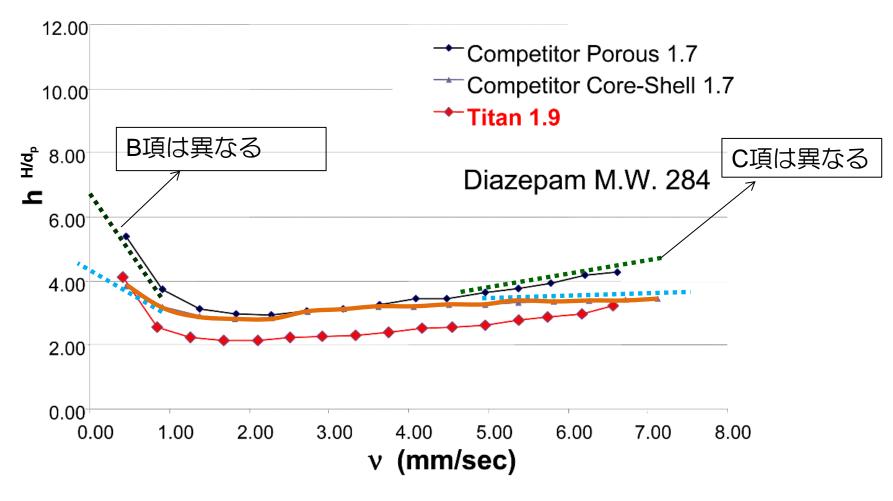


Santasania et al. Poster presentation, P-332-Mon, HPLC 2012





Van Deemter Plotの比較 (コアシェル vs 全多孔性)



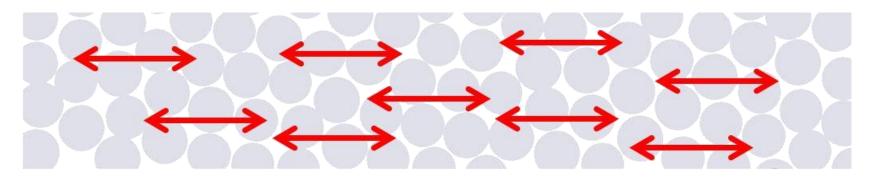
Santasania et al. Poster presentation, P-332-Mon, HPLC 2012



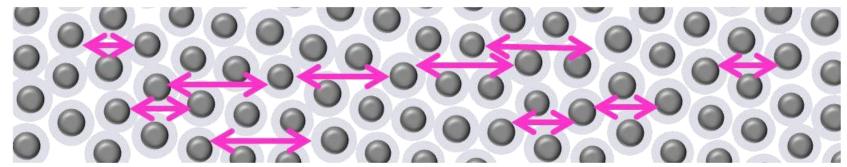


カラム軸方向への拡散とB項

溶質は細孔内も粒子外と同様に拡散する 全多孔性充填剤



コアシェルシリカ



Flow rate (mL/min)

細孔のないコアの存在により、 カラム軸方向の拡散が阻害される



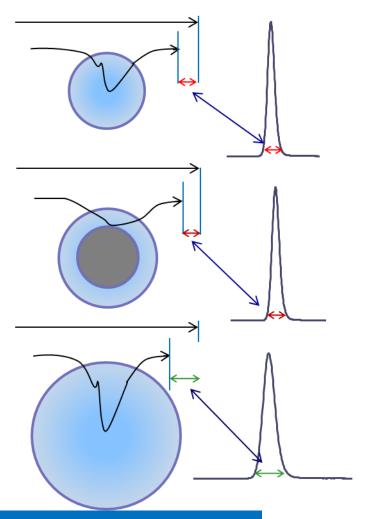
B項が小さくなる

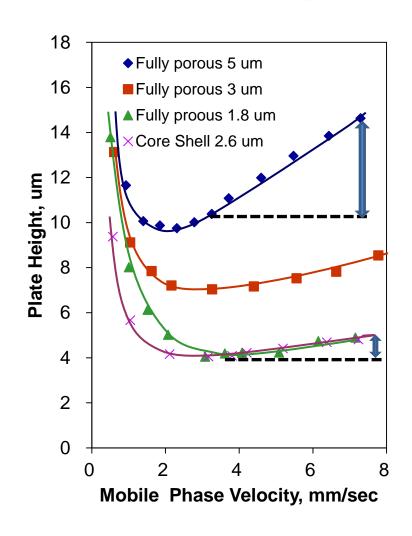






『拡散による物質移動(の遅れ)』とC項





コアシェルシリカは・・

多孔質層が薄いため、溶質の拡散距離が短くなる → Cが小さくなる







コアシェル構造の利点

Van Deemter の式のA項,B項およびC項が小さくなる

コアシェル粒子は粒度分布が狭く、 密な充填が比較的簡単にできる。 この密な充填がA項を小さくする

高い理論段数が得られるカラムの性能が高い

コアが溶質の拡散を妨害し、溶質の カラム軸方向への拡散が抑えられる ため、B項が小さくなる

流速が遅い条件でも理論段 数の低下が少ない

多孔質層が薄く、多孔質内での溶質の拡散距離(移動距離)が短くなるため、C項が小さくなる

流速が速い条件でも理論段 数の低下が少ない

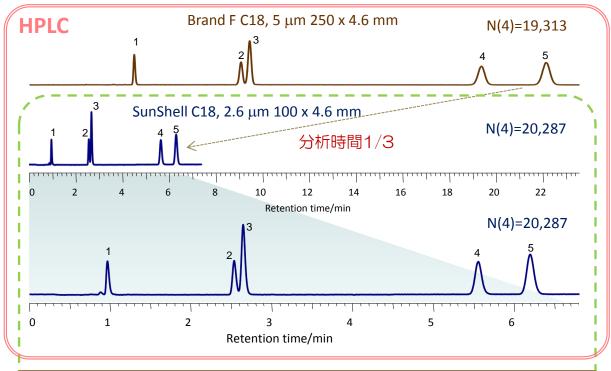
カラムにしたときは・・・・

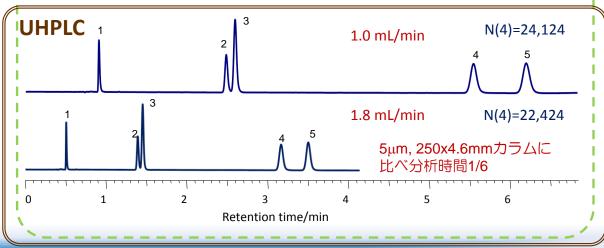
同じ表面処理をしていれば全多孔性シリカカラムと 同じ選択性を示す





イソクラティック溶離例 5μm C18からの移行





Column:

Brand F C18, 5 μ m 250 x 4.6 mm SunShell C18, 2.6 μ m 100 x 4.6 mm

Mobile phase:

 $CH_3CN/20$ mM Phosphoric acid = 45/55

Flow rate: 1.0 mL/min,

1.8 mL/min at the lowest chromatogram

Temperature: 25 °C

Pressure: 9.5 MPa for Brand F C18 5 μm

13.4 MPa for SunShell C18 2.6 μm

Detection: UV@230 nm

Sample: 1 = Benzydamine

2 = Ketoprofen

3 = Naproxen

4 = Indomethacin

5 = Ibuprofen

HPLC: Hitachi LaChrom ELITE

(内径0.25mmの配管仕様)

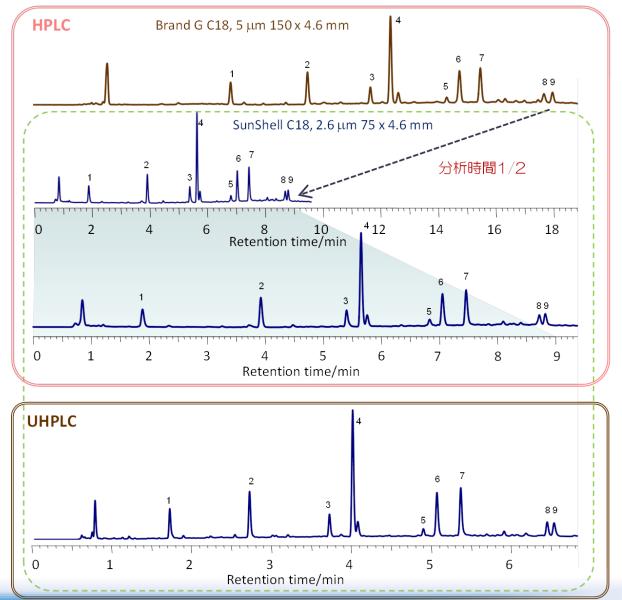
UHPLC: Jasco X-LC







グラジエント溶離例 5μm C18からの移行



Column:

Brand G C18, 5 μ m 150 x 4.6 mm SunShell C18, 2.6 μ m 75 x 4.6 mm Mobile phase:

- A) 0.1% Phosphoric acid
- B) CH₃CN

Gradient program for Brand G C18

Time	0 min	15 min	20 min
%B	2%	25%	25%

for SunShell C18

Time	0 min	7.5 min	10 min
%B	2%	25%	25%

Flow rate: 1.0 mL/min, Temperature: 25 °C

Detection: UV@250 nm

Sample: Oolong tea

1 = Gallocatechin, 2 = Epigallocatechin,

3 = Catechin, 4 = Caffeine, 5 = Epicatechin,

6 = Epigallocatechin gallate, 7 =

Gallocatechin gallate, 8 = Epicatechin

gallate, 9 = Catechin gallate

HPLC: Hitachi LaChrom ELITE

(内径0.25mmの配管仕様)

UHPLC: Jasco X-LC

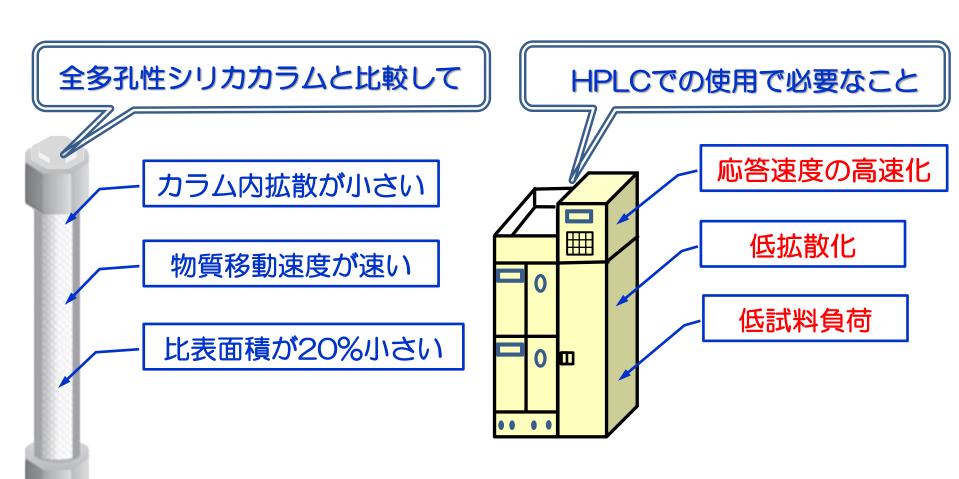






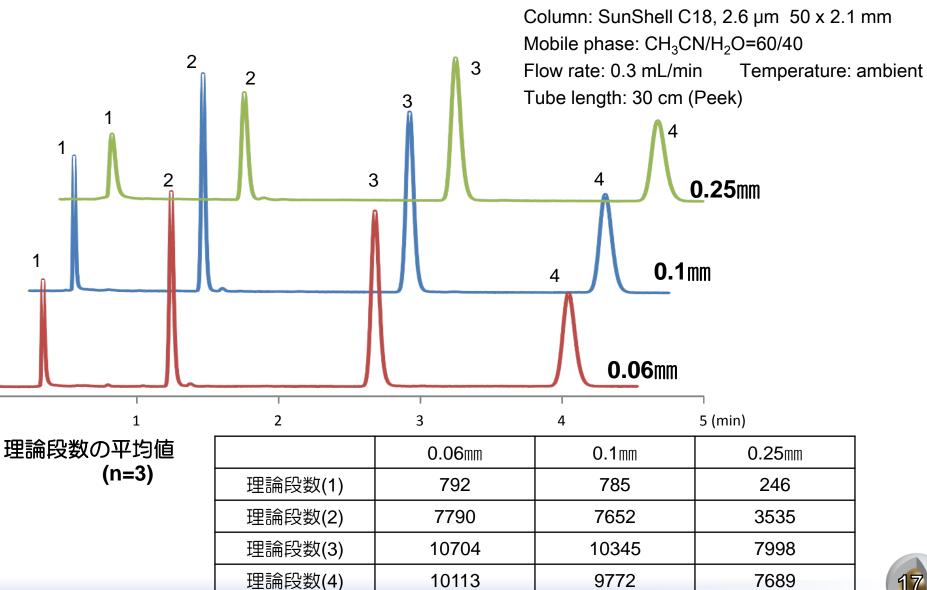
コアシェルカラムをHPLCで使う





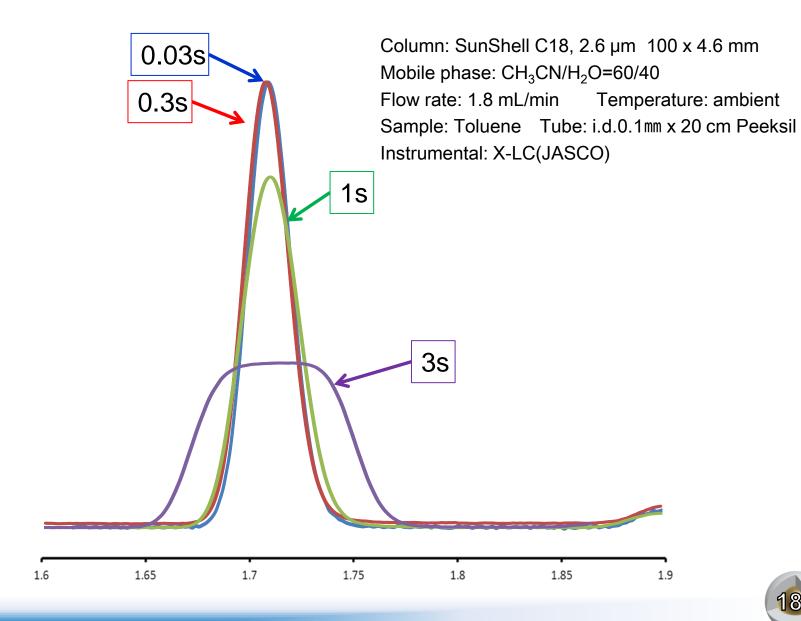


カラムー検出器間における配管の影響



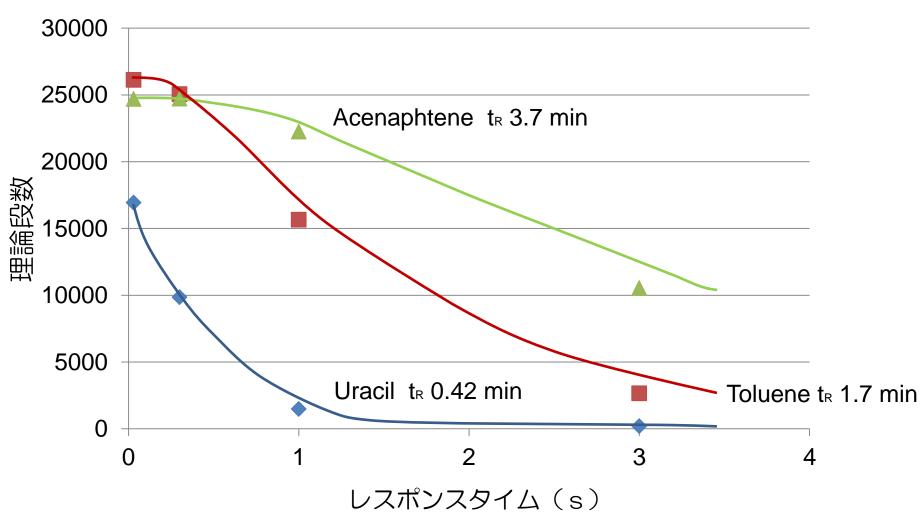


検出器レスポンスタイムの影響





検出器レスポンスタイムの影響







HPLCをコアシェルカラムに最適化すると

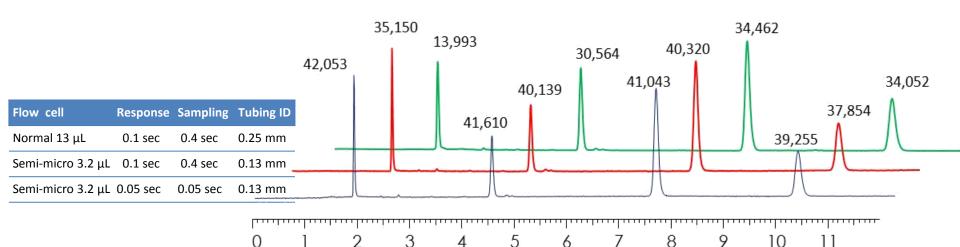
	最適化前	レスポン スタイム	配管	マイクロ フローセル	UHPLC
5 µm全多孔性 カラム	10141	10463	11195	11738	11637
3 µm全多孔性 カラム	15039	16494	17555	17969	18135
2.6 µm コア シェルカラム	14810	19819	22921	27146	28208
最適化					

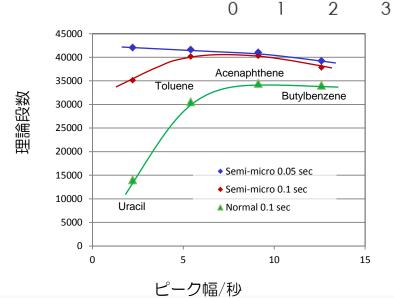
HPLCでも最適化を行えばコアシェルカラムを UHPLCに近い性能で使うことができることがある





通常仕様とセミミクロ仕様のHPLCの比較





Column: SunShell C18, 5 μm 250 x 4.6 mm

Mobile phase: CH₃CN/H2O= 70/30

Retention time/min

Flow rate: 1.0 mL/min, Temperature: 40 °C Pressure: 6.7 MPa Detection: UV@250 nm Sample: 1 = Uracil 2 = Toluene

3 = Acenaphthene

4 = Butylbenzene







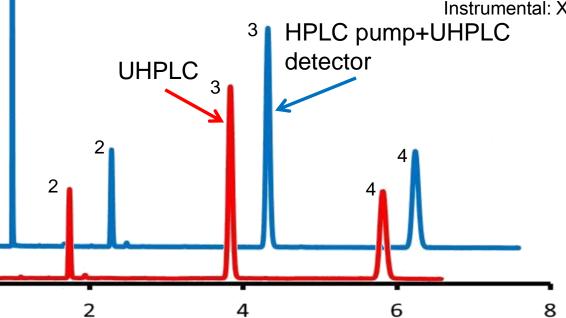
HPLCをUHPLCに!?

Column: SunShell C18, 2.6 µm 100 x 4.6 mm

Mobile phase: $CH_3CN/H_2O=60/40$

Flow rate: 1.8 mL/min Temperature: ambient

Instrumental: X-LC, LC2000Plus (JASCO)



	HPLC	UHPLC
理論段数(1)	16835	16900
理論段数(2)	26013	26107
理論段数(3)	24548	24505
理論段数(4)	22823	22791



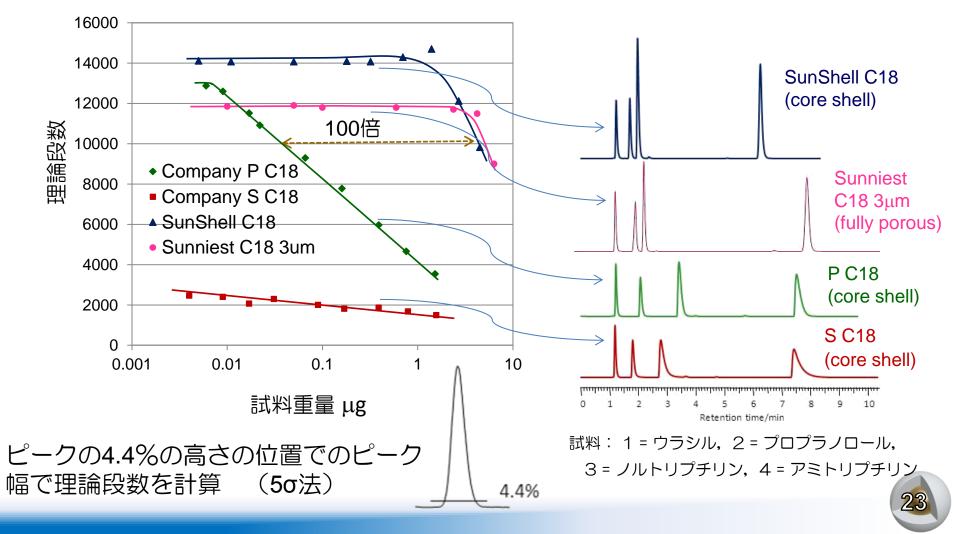






アミトリプチリンの負荷量の比較

移動相: アセトニトリル/20mMリン酸緩衝液pH7.0=(60:40) カラムサイズ: 150 x 4.6 mm, 流速: 1.0 mL/min, 温度: 40℃





市販されているコアシェルカラム

SunShell(クロマニックテクノロジーズ) : C18, PFP, C8, Phenyl, RP-Aqua, Halo (AMT) : C18, PFP, CN, PentaHILIC, RP-Amide Capcell Core(資生堂) : C18, PFP, AQ, PC Kinetex (フェノメネックス) : C18, PFP, C8, XB-C18, HILIC, : C18, C8, C4 (タンパクペプチド分析用) Kinetex Aeris (フェノメネックス) Ascentis Express(シグマアルドリッチ): C18, F5(PFP), C8, OH5, RP-Amide PoroShell(アジレントテクノロジー) : C18, C8, CN, Phenyl-Hexyl, SB-AQ Accucore (サーモフィッシャー) : C18, PFP, Phenyl-Hexyl, aQ, RP-MS Nuculeoshell (ナーゲル) : C18, PFP, Phenyl-Hexyl, HILIC : C18, PFP, C8, Amide, HILIC Brownlee SPP (パーキンエルマー) : C18, PFP, Phenyl-Hexyl, C18A, HILIC Blue Shell (KNAUER) **Cortecs** (Waters) : C18, C18+, HILIC Raptor (Restek) : Biphenyl **UltraCore (Ace)** : C18, Phenyl-Hexyl **SpeedCore (Fortis)** : C18, PFP, Diphenyl, HILIC

: Mixmode

Coresep (Sielc) **COSMOCORE** (Ncalai) : C18

Meteoric Core (YMC) : C18, C8, C18Bio

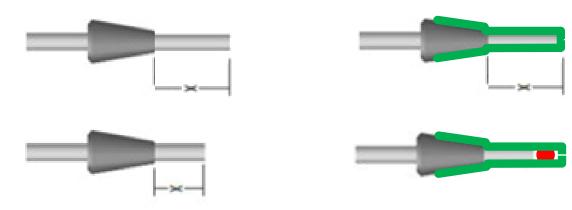
上記のメーカーより様々な固定相のコアシェルカラムが販売されてる。







カラムフィッティングの違い

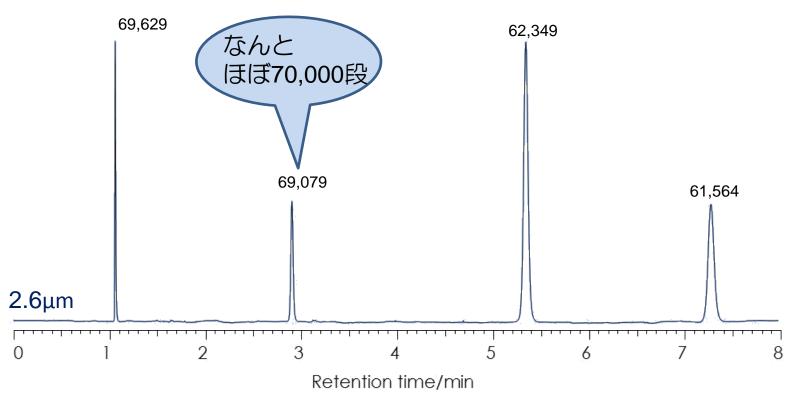


Ferrule Type	ネジ部の長さ	ポートの深さ	主な用途
WATERS	0.320"	0.130" (3.30mm)	送液系・カラム接続
SWAGELOK	0.225"	0.090" (2.29mm)	送液系・カラム接続
PARKER	0.210"	0.090" (2.29mm)	送液系・カラム接続

カラムの接続時には、注意が必要。カラムエンドの種類の確認を・・・



コアシェルカラムをUHPLCで使う



Column: SunShell C18, 2.6 μm, 250 x 4.6 mm

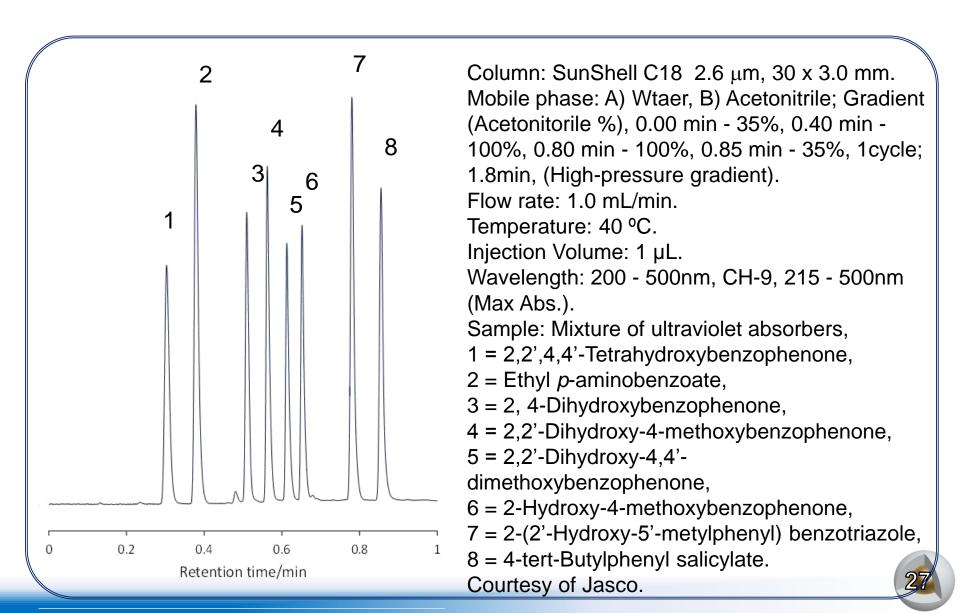
Mobile phase: CH₃CN/H₂O= 70/30 Flow rate: 1.8 mL/min, Temperature: 25 °C

Pressure: 45 MPa for 2.6 μm Detection: UV@250 nm

Sample: 1 = Uracil, 2 = Toluene, 3 = Acenaphthene, 4 = Butylbenzene, HPLC: Hitachi LaChrom ELITE



高速分離例





まとめ

- コアシェル粒子は、全多孔性シリカ粒子と化学的な 特徴は同じである
- コアシェルカラムは、カラム内拡散が小さく、物質 移動が速いため高理論段数が得られる
- HPLCでコアシェルカラムを用いる場合、配管、検 出器のレスポンスタイム、試料負荷量に注意が必要 である
- HPLCポンプにUHPLC検出器を組み合わせて使用した場合、UHPLCと同等の結果が得られた
- 最適化されたHPLCでは、溶出が早い試料ほど理論 段数が高くなった



まとめ

- コアシェルカラムは、カラム内拡散が小さく、物質移動が速いため高理論段数が得られる
- HPLCでコアシェルカラムを用いる場合、配管、 検出器のレスポンスタイム、試料負荷量に注意が 必要である
- HPLCポンプにUHPLC検出器を組み合わせて使用した場合、UHPLCと同等の結果が得られた
- 最適化されたHPLCでは、溶出が早い試料ほど理 論段数が高くなった



707—7010BE ChromaNik Technologies Inc.





SunShell RP Guard Filter スターターキット(新オシネジ)(型番CBGAKN)



SunShell RP Guard Filter 交換用C18フィルター5個(型番CBGAAC)

*CBGAKNは1/4インチのスパナ締めの配管になります

キャンペーン期間:2014年9月1日~2015年4月30日

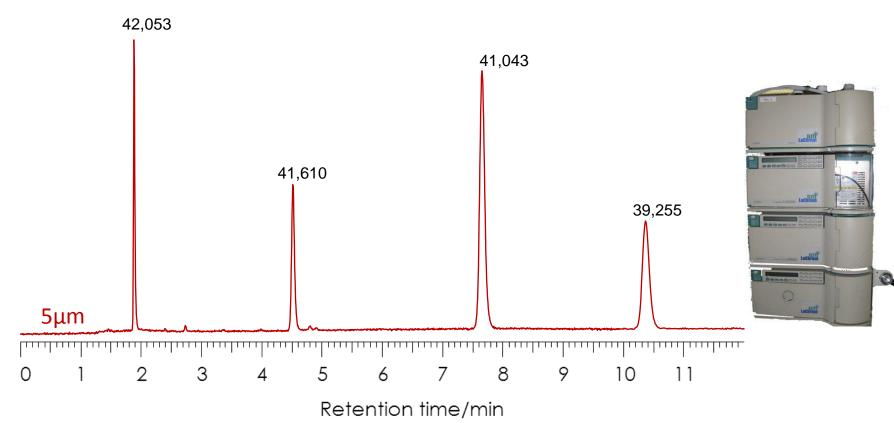








SunShell 2.6 μm, 5 μm 4.6x250mmカラムの性能



Column: SunShell C18, 5 µm 250 x 4.6 mm

Mobile phase: CH₃CN/H₂O= 70/30 Flow rate: 1 mL/min, Temperature: 40 °C

Pressure: 6.7 MPa for 5 μm Detection: UV@250 nm

Sample: 1 = Uracil, 2 = Toluene, 3 = Acenaphthene, 4 = Butylbenzene, HPLC: Hitachi LaChrom ELITE







全多孔性シリカとコアシェル型シリカ 2.6μmと5μmの標準試料の保持比較

|--|

	全多孔性シリカ Sunniest C18, 5 μm		コアシェル型シリカ SunShell C18, 2.6 μm		コアシェル型シリカ SunShell C18, 5 μm		
比表面積	340 m²/g		150	150 m²/g		90 m²/g	
	保持時間(t _R)	保持指数(k)	保持時間(t _R)	保持指数(k)	保持時間(t _R)	保持指数(k)	
1) ウラシル	1.70	0	1.34	0	1.30	0	
2) カフェイン	1.90	0.12	1.46	0.09	1.41	80.0	
3) フェノール	2.17	0.28	1.65	0.23	1.57	0.21	
4) ブチルベンゼン	13.35	6.85	10.87	7.11	8.93	5.87	
5) o-ターフェニル	19.19	10.29	15.49	10.56	12.76	8.82	
6) アミルベンゼン	19.96	10.74	16.56	11.36	13.43	9.33	
7) トリフェニレン	24.35	13.32	21.95	15.38	16.76	11.89	
相対値アミルベンゼン	100%	100%	83%	106%	67%	87%	

コアシェル型シリカ **5 μm**

コア径:3.4 μm

シェル層厚: 0.6 μm -

移動相: Methanol/water(75:25)

温度: 40℃

カラム: 150 x 4.6 mm

流速: 1.0 mL/min